

2025(令和 7)年度 事業所評価結果

- 保護者等からの事業所評価の集計結果
(放課後等デイサービス)
- 事業所における自己評価結果
(放課後等デイサービス)
- 事業所における自己評価総括表
(放課後等デイサービス)

2026(令和 8)年 2 月 26 日

一般社団法人 虹色
こどもデイサービス夢色 木上事業所

【公表】保護者等からの事業所評価の集計結果（放課後等デイサービス）

事業所名		公表日				利用児童数	回収数
こどもデイサービス夢色 木上事業所		令和8年2月26日				18	12
	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
		環境・体制整備	1	10	2		
	2	11			1	きめ細かく見て下さり、感謝しております。	
	3	10	1		1		
	4	8	2		2		
適切な支援の提供	5	11			1	よく理解して支援を考えてやってくれている。	
	6	10	1		1		
	7	12					
	8	11			1		
	9	11			1		
	10	10			2	季節の行事や活動、誕生日会等他にもいつも内容を考えて下さり、会では役割分担を設けたり、子ども達が企画するイベントを開催してくれたり子どもがとて楽しみに通所している。	
	11	1	1	4	6		
保護者への説明等	12	11	1				
	13	12					
	14	4	4	1	3		
	15	11	1			毎回の連絡帳や送りの時に丁寧に様子を伝えて下さり感謝しています。	
	16	9	3				
	17	11	1				
	18	3		3	6		
	19	10			2		
20	12						

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
	21 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	9	1		1	通信が濃い。	
	22 個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	11	1				
非常時等の対応	23 事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	10	1		1		
	24 事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	10			2	定期的にしておりありがたいです。	
	25 事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	10	1		1		
	26 事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	11			1		
満足度	27 子どもは安心感をもって通所していますか。	12				ずっと通いたいと言っています。	
	28 子どもは通所を楽しみにしていますか。	11	1			スタッフの皆さんがとても素晴らしいです。	
	29 事業所の支援に満足していますか。	11	1			大変満足しております。	

その他のご意見

小学1年生から通ってきた夢色いよいよ卒業です。優しく楽しく支援していただき楽しく笑顔で安心して過ごすことができ感謝しています。卒業後そんな場所がなくなることがとても寂しい不安でもあります。難しいでしょうが卒業後も繋がってほしいなあと思っています。ありがとうございました！感謝でいっぱいです！

生活介護施設の検討をぜひお願いします。

【公表】事業所における自己評価結果（放課後等デイサービス）

事業所名		こどもデイサービス夢色 木上事業所		公表日	令和8年2月26日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5		段差がなく車椅子やバギーでも移動がしやすく入口から靴箱、ロッカー、手洗い、検温へと続く動線が分かりやすく整備されている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		日々の清掃や設備、物品の定期的な拭き上げで衛生管理に配慮している。プラットフォームを活用し布団で休める静的空間とボール遊びなどができる動的空間を机やパーテーションで明確に区分している。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	3	2	子どもが使用できる個室はないが、必要に応じてカーテンやパーテーションを活用し、面談やクールダウンに使っている。個々のこだわりなどを考慮し、落ち着ける場所や環境を設定している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	4	1		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	1		保護者等の意向通りの業務改善は難しいこともある。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	1		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		5		第三者による外部評価は現在行われていない
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		社内外の研修機会が整っており、積極的に参加できている。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		支援プログラムを作成し、法人のホームページにて掲載し、事業所内でも掲示している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		個別支援会議だけでなく必要に応じて意見交換を行うことで職員同士の共通理解ができている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		計画が作成された時点で全職員に共有され計画に即した支援が検討、行われている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	1	標準化されたツールは用いられていないが、日々の行動観察を重視し、職員同士が密に意見交換することで多角的な視点を保っている。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	3	2		移行支援、地域支援、地域連携の項目が明記されていなかったため、計画の様式を変更した。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		日ごとに担当職員を決め、興味関心、情緒、体調を踏まえて立案している。活動の様子をチームで共有し、次回プログラムに反映している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		季節行事を取り入れ、年間を通して多様な活動を提供できるように工夫している。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
供	19	5		個別活動として独立した枠は設けていないものの、目標ニーズに応じて集団活動、余暇時間の中で個々の目標達成に向けた支援を行っている。	
	20	5		支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	
	21	5		支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	
	22	5		日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	
	23	5		定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	
	24	4	1	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	地域交流の活動の機会が少ない。
	25	5		子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	
関係機関や保護者との連携	26	5		障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	
	27	5		地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	
	28	5		学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	
	29	1	4	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	近年、就学前の利用者の受け入れがなかったが、受け入れを行う場合は情報共有と相互理解に努めたい。
	30	5		学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	
	31	2	3	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	
	32	2	3	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	
	33		5	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	参加できていない。
	34	5		日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	
	35		5	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	
保	36	5		運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	
	37	5		放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	
	38	5		「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	
	39	5		家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		5		
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		苦情対応の担当職員を設定し、苦情があった際は迅速にかつ適切に対応できる体制が整備されている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5		ほぼ毎月「きのうえだより」を発行、配布している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		5		地域住民を招待するなどの機会はできていない。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		それぞれのマニュアルを策定し、事業所に提示し周知を行っている。訓練も毎月、定期的に行っている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		BCPの策定がされている。定期的な訓練と避難、救出の方法を見直し検討している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	5		契約時や適宜保護者より情報を提供してもらっている。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	1	契約時や適宜保護者より情報を提供してもらっている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4	1	安全計画を作成し、内部研修を行うことで安全管理には十分留意している。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5		契約時と計画の見直しのタイミングで安全計画について説明するようにしている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		ヒヤリハットの事例をまとめ職員間で共有し、再発防止について話し合う機会を設けている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		県や市が主催する研修に積極的に参加し、制度や支援方法を学んでいる。また、定期的に社内研修も行われ、適切な対応がされるよう徹底している。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4	1			

【公表】事業所における自己評価総括表（放課後等デイサービス）

○ 事業所名	こどもデイサービス夢色 木上事業所			
○ 保護者評価実施期間	令和8年1月23日		～	令和8年2月6日
○ 保護者評価有効回答数	対象者数	17	回答者数	12
○ 従業者評価実施期間	令和8年1月23日		～	令和8年1月30日
○ 従業者評価有効回答数	対象者数	5	回答者数	5
○ 事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月20日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	玄関を含め事業所内に段差がなく自走式車椅子やパギー型車椅子を使用する児童にとって安全かつ自立的に移動しやすい環境を整備している。 入口から靴箱、ロッカー、手洗い、検温へと続く動線が明確に構造化されており見通しを持ちやすい空間設計となっている。 ブラットホームを活用した静的な空間とボール遊び等が可能な動的な空間を机やパーテーションで緩やかに区分することで安全性の確保と刺激量の調整を図りつつも空間を明確に区分しすぎない工夫をしている。これにより、横になりゆっくりと過ごしながらも活動的な児童と互いに自然と交流しやすい環境が保たれている。	空間を過度に分断せず、刺激調整と交流機会の両立を意識している。遊びの様子が見える配置とすることで、自然な声かけや活動への参加を促し、児童同士の関りが生まれやすい環境づくりを行っている。	今後は活動配置や空間設定を定期的に見直し、児童の表情・参加、交流頻度・クールダウン回数などを振り返り、効果を確認しながら調整を行うことで、刺激調整と交流機会のさらなる両立を図っていく。
2	個別支援会議にこまめらす、必要に応じて意見交換の場を設けることで、支援方針の共通理解を徹底している。日々の行動観察を重視し、職員同士が密に情報共有を行うことで一方的な見立てに偏らず、多角的な視点から児童を捉える体制が整っている。 法人内に発達支援の経験を有する専門職（作業療法士等）が在籍しており、必要に応じて助言を受けられる体制が整っていることで支援の妥当性を確認しながら専門性を担保できる仕組みが構築されている。	日々の行動観察を基盤とし、気付きや支援の工夫を随時共有することで職員間の認識のずれを防いでいる。また、多職種視点を取り入れながら見立てを行い必要に応じて専門職の助言をうけることで支援の妥当性を確認している。	日々の気付きや支援の工夫を記録として蓄積し定期的に振り返る時間を設ける。共有した情報や助言を基に「どう実践するか」まで深掘り話し合うことでより根拠のある支援につなげていく。
3	外部・内部の研修へ積極的に参加し、制度の改正や支援方法の変化に対応できるよう知識のアップデートを徹底している。発達支援に限らず感染予防・防災・虐待防止・身体拘束適正化等の法令で定められた研修・訓練についても規定回数を満たすだけでなく、必要に応じて追加実施している。これにより職員の意識向上と対応力の維持を図り、リスクの未然防止に努めている。制度遵守にとどまらず、実践場面を想定した学びを重ねることで安全確保と権利擁護の徹底につなげている。	外部・内部研修への参加を通して知識の更新を図るとともに、学んだ内容を職員間で伝達講習という形で共有し、実際の支援に活かすことを意識している。支援方法だけでなく、制度理解や適切な対応姿勢についても学ぶ体制が整っている。法定回数を遵守するだけでなく、状況や課題に応じて研修・訓練機会を増やし、具体的事例を通して理解を深めている。	学んだ内容を記録として整理し、実践への活用状況を振り返る機会を設ける。ヒヤリハット事例の共有やロールプレイを取り入れより実践的な学びへと発展させていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所内の支援体制は整備されている一方で外部機関との連携や地域との交流機会は限定的であり、地域に開かれた運営体制の構築が課題。	協議会の具体的な役割や参加によるメリットが十分に理解されていない。 感染症流行以降、地域交流活動を企画・実施しづらい状況が続いていた。 日常支援を優先する中で、外部連携に向けた情報収集や計画立案の機会が十分に確保できていなかった。	協議会等の外部機関の目的や役割、参加することで得られる情報・ネットワークについて理解を深める。その上で可能な範囲で見学や情報収集から段階的に関わりを検討する。 地域交流については、小規模な交流や見学を受け入れ、実施可能な範囲から段階的に取り組む。 第三者評価について、事業所として自己評価結果や改善内容を積極的に可視化、共有することで透明性向上に努める。
2	保護者からの個別相談には随時対応しているものの、保護者や兄弟児交流、体系的な家族支援プログラムの実施には至っていない。家族同士がつながり、学び合う機会の提供が十分でない点が課題。	家族同士の繋がり等に関するニーズの把握が十分でない。 家族同士関わる機会を設けることができていない。	事業所内のイベント（夏祭り・クリスマス会・送別会等）に保護者・兄弟児等も参加し繋がるよう実現可能な範囲内で企画していきたい。
3	第三者評価を実施していないため、外部からの客観的視点を体系的に取り入れる仕組みが十分とは言えない。	内部研修や自己評価が充実しているため、外部評価の必要性が強く意識されてこなかった。	法人内の他事業所の支援方法や環境設定、安全管理体制等を実際に見て学ぶことで自事業所の支援を客観的に振り返る機会とする。併せて、保護者アンケートについては結果の分析を丁寧に行い、具体的な改善計画へ反映させるとともに、改善内容を事業所評価の公表へ詳細に記載することで利用者視点に基づく質の向上を図る。